

# 令和5年度 大垣市教育振興基本計画評価委員会 第2回会議録

- 1 **とき** 令和5年7月19日（水）9:30～11:15
- 2 **ところ** 大垣市役所6階 6-3、6-4会議室
- 3 **出席者** 長谷川 哲也委員長、田村 弘司副委員長、尾形 佳孝委員、  
佐野 篤委員、三代 広子委員、川合 麻美委員、内藤 正信委員  
(欠席：井上 瞳委員)
- 4 **事務局** 細江教育長、平松事務局長、鈴木庶務課長、小塩庶務課長、  
伊藤学校教育課長、山田教育総合研究所長、林社会教育スポーツ課長、  
鈴木文化振興課長、橋本図書館長、高橋学校給食センター所長、  
吉安庶務課主幹、中野庶務課主査
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議題**
- (1) スポーツ推進分野（基本目標4）の評価について
  - (2) 学校教育について
  - (3) 社会教育について
  - (4) 令和5年度以降の指標及び目標値の変更について

## 7 会議録

- (1) スポーツ推進分野（基本目標4）の評価について  
別紙資料に基づき、林社会教育スポーツ課長が説明。  
以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	前回評価不能であるという協議をいたしましたが、指標2「体育施設の利用者数（人）」に関しては、精査した結果、評価不能とする理由がないため評価するということになりました。 総合評価につきましては、指標1の自己評価が評価不能となっておりますので、評価不能のままとなります。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

(2) 学校教育について

別紙資料に基づき、伊藤学校教育課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	11 ページの基本施策 1-2「研究指定校事業」について、実績に働き方改革（小野小）とあります。この事業にある理由について教えてください。
伊藤 学校教育課長	研究指定校事業については、教育分野において現在課題になっているものを積極的に取り組むようにしております。 児童生徒については、学力向上やプログラミングを、教員については、働き方改革を、この事業の中で取り組みました。
委員	いじめの現状を教えてください。
伊藤 学校教育課長	いじめの認知件数は全国に比べて高いです。いじめの件数が多いというよりは、教員が、敏感に児童生徒の変化や悩みに気づき、いじめに繋がっていかないように、積極的に細かいところまで認知していると認識しています。
委員	17 ページの指標 2「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている子どもの割合 (%)」は 97.5%ですが、先生方が認知している件数が多いにもかかわらず、いけないと思っている子は 97.5%いるというのはバランスがどうなのかと思います。
伊藤 学校教育課長	いじめの法律的定義は、被害を受けた側がいじめと感じたもの、例えば何かを強く言われた、不快を感じたなど全てとなります。これらを全ていじめとして認知しております。法律のないいじめと世間で認知するいじめに、ずれがあると感じます。
委員	子ども達には、この指標の内容のまま質問していますか。
伊藤 学校教育課長	はい。大半の子ども達がいじめはいけないと認識していることは間違いないと思います。
委員	コロナが 5 類に移行し、学校行事も再開し始め、子ども達が共に何かを行う機会が増えてきました。いじめの認知件数が増えたというのは、先生方がいじめの未然防止を意識され、きめ細かくしっかり見てくれているからとも捉えられると思います。 それと、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている子どもの割合が 100%になることは、子ども自身の解釈の違いもあると思いますので、理想ではありますが難しいと思います。いじめはいけないということを、学校教育の中で子ども達に機会があるごとに

発言者	発言概要
	<p>指導・支援していくことは大切ですし、また、子ども同士で話し合いながら、いじめは良くないことなんだと自分たちで認知していく、こういった取り組みを充実させていくと数値も徐々に上がっていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>子どもは、親や大人から何か言われて「はい」と返事をしている、心の中では100%いじめをしてはいけないと思わないこともあると思います。</p> <p>最近は先生方の対応も随分変わり、いじめに対して敏感になっている、すぐ対応していただけているとよく聞きますし、すぐ学校から電話をいただいたり、状況を伝えてくださると聞いています。</p>
委員	<p>この数字をうのみにはできないと思います。数値は高いですが、本心は違うということもあるのではないかと思います。常に注意はしていないといけないと思います。</p>
委員	<p>そうですね。本音と建て前というのがありますし、いじめは子どもの社会の中ではどうしても起こり得ると思いますので。</p>
委員	<p>非常に難しい問題だと思います。自分のしていることをいじめと認識しているかどうかの問題だと思います。</p> <p>私が子どもの頃も、靴を隠すいたずらのようなことはありました。それを全員がいじめと認識しているかという点も難しいと思います。ただ学校としては、子ども達には自分がされて嫌なことはしてはいけない、自分はいじめと思っていないけれども、相手が嫌と感じるならそれはいけないことだと指導し続けることだが大事だと思います。</p> <p>誰でもいじめはいけないと思っていると思います。ただ、いじめと認識しているかどうかということです。</p>
委員	<p>ほとんどの生徒がいけないことだと思っていると思います。</p> <p>学校では、いじめのきっかけとなるようなことが起こっています。先生たちも敏感になっていますし、いじめかもしれないという時点で指導をしています。</p> <p>また、いじめはいけないと回答している子が、実際にはいじめをしていたということもあります。先生の早めの働きかけで、相手を傷つけていることを指導し、そこで気づく子どももいます。そのおかげで早期にいじめを止めることができることもあります。</p> <p>この数値といじめの認知件数が、一面では反比例したり一面では比例したり、相関関係としては難しいと思います。</p>

発言者	発言概要
委員	<p>この指標を検討する時に関わっておりましたが、最終の目標を100%にするかどうかを決定するのは非常に難しかったです。</p> <p>ただ、なぜ敢えて100%としたかという、策定時の事務局が教育行政の責任として100%を目指すべきだとお考えになったからです。つまり、今回の指標や評価というのは、あくまで教育行政の姿勢や事業の取り組みの評価ですので、その結果として100%目指したい、あるいは子ども達が教育行政のさまざまな事業を通じて、人をいたわったり子ども達の中でいじめはやってはいけないという心を育てたい、それがこの指標としてピックアップされています。</p> <p>この指標をどう見るかということですが、必ずしも学校現場の実態として、いじめがゼロにならないとか、あるいは先生方のいじめに対する指導の活発化によって、いじめの件数自体は増えてしまうかもしれません。いじめはもちろん減っていくのが理想ですが、総合的な施策によって、子ども達が人を思いやったり他者を尊重したりできるようになり、それが徐々に高まっていく、そういう指標としてみていく、少し読み替えてみていくという部分もあっても良いと思っています。</p>
細江 教育長	<p>私は指標を策定する時に学校教育課に在籍しており、最終的に100%を目標といたしました。おそらく100%は達成しないかもしれませんが、しかし、教育に携わる者として、やはり子ども達にいじめはどんなことがあってもいけないという意識を常に持ってもらえるように刺激をしていくことが大切ですので、ずっとB判定かもしれませんが100%を目指したいと思いました。</p> <p>一方で、いじめの認知件数の見方も慎重に考える必要があると思います。いじめの認知件数が上がっているのは、先生方の感度が上がり、いじめにならないかもしれないものも引き上げながら指導していることもありますので、感度が高まった状態で件数が下がっていくことが一番良い訳ですが、そこはバランスを見ながら指導していかなければいけないと思います。</p>
委員	<p>私は企業の研修に携わっており、個人的な意見ですが、非常に皆さんデリケートで、ちょっとした注意事項でもパワハラになってしまいます。</p> <p>小学校でいういじめ、中学校でいういじめ、また小学校の中でも低学年、高学年でも全然違うと思います。</p>
委員	<p>教室に入った時に机が少し乱れていて、ちょっとおかしいと思う</p>

発言者	発言概要
	<p>かどうか先生方の感度だと思います。当然一律に見るのではなくて、発達段階に合わせてどういう視点で先生方がそれを見ていくか、そういう面ではある意味、小学校と中学校で密度が違って来るかもしれません。</p>
委員	<p>小学校 1～2 年生のいじめ報告は、消しゴムを貸したら返ってこなかったというようなことも校長に報告があります。担任の先生が、その子の話を聞いて 1 日で解決することもありますし、それが続いていじめに繋がっていく可能性もあります。</p> <p>中学校になると、そのような報告はなく、部活での人間関係等になってきます。</p> <p>やはり自然に子ども達のいじめの報告内容も変わってきますし、対応の仕方も学年によって変わってきます。いずれにしても、どんな些細なことでも取り上げて、みんなで話題にしないと見逃していく可能性があります。消しゴムくらいと思わずに対応しておりますので、それがいじめ認知 1 となります。でもそれで救われている子が多いのではないかと思います。</p>
委員	<p>いじめの件数をみると、小学校 2 年生をピークに減少傾向となります。</p> <p>例えば、高校 3 年生のいじめは他と比べるとかなり少なくなっています。小学校でいじめと捉えているものが、必ずしも中学校 3 年生の子ども達と同じような行為をいじめと捉えているわけではないというのが実態だと思います。そのため、いじめの認知件数の学年によるずれがあると思います。</p> <p>ただ一方で、いじめで子どもの命が奪われるとか不登校になってしまうというのは、学校段階や学年とはあまり関係なく起こってしまいます。</p> <p>また、教育行政に関していえば、ひとたび、いじめの重大な事件が起こると、大垣市がこれだけ充実した事業をされていても、それにあらゆる事業が集中してしまう、他が止まってしまうことがあります。</p> <p>そう考えると、小さな芽でも先生方が探され、それを摘んでいくということは、かなり重要だと思います。これくらいはと放置してしまった時のリスクが非常に高くなっています。幸いにも大垣市は、決定的な事案が先生方のご指導で抑えられておりますので、これをいかにきちんと繋いでいくかが大事だと思います。</p>

発言者	発言概要
委員	19 ページに多文化と異文化という言葉がありますが、違いをお伺します。
伊藤 学校教育課長	<p>多文化は基本的に多文化共生で、さまざまな文化の国の方が日本の中で共に暮らしていきましようという意味で使います。</p> <p>異文化は異なった文化がありますので、主にコミュニケーションで使うことが多いです。</p>
委員	<p>確かにその後続く言葉は、多文化間コミュニケーションとはあまり使わず、異文化間コミュニケーションという言葉です。課長がおっしゃったように、共生の場合は多文化共生を使いますが異文化共生はあまり使ったりしません。共生社会の場合の政策的なスローガンとしては多文化が使われ、実際にコミュニケーションが生じるミクロなレベルでは異文化が使われることが多いと思います。</p> <p>多というのは、やはり数的に多いということ想定していると思いますが、異というのは1対1でも文化が異なる場合があります。政策的には、グローバルな考え方をする場合、多ということ想定しておかなければいけません。</p>
委員	小中学校に外国の方はどれくらいいますか。
伊藤 学校教育課長	外国籍児童数は令和5年4月17日現在で、小学校257名、中学校119人です。
委員	<p>17 ページに通訳4人とありますが、言語対応としては、かなりいくつかの言語にまたがるのでしょうか。音声翻訳機が貸し出されているということが実態を表していると思いますが、言語としてどれくらいあるか把握されていますか。</p> <p>通訳4人は別言語でしょうか。</p>
伊藤 学校教育課長	ポルトガル語、中国語、スペイン語、タガログ語、英語には対応しております。
委員	西濃地方は以前からブラジル系、南米系の方が多いですので、それに対応する言語は揃っていると思いますが、最近、フィリピンタガログ語の方々が多く移住されています。対応は大変だと思いますが、言語の対応は非常に重要だと思います。
委員	<p>20 ページの指標1「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っている子どもの割合(%)」が34.5%とありますが、非常に低く感じられます。</p> <p>本校がとったアンケートで、「ふるさと大垣科の授業で、大垣のこと</p>

発言者	発言概要
	<p>が良く分かり好きになった」という質問に対して73%の生徒が「はい」と答えています。これが外国の人に大垣の良さを伝えたいかというのと半分に減ると思います。</p> <p>他県に大垣の良さを伝えたいという思いはあっても、外国の人になると「はい」とはならないのではないかと思います。</p> <p>大垣を愛することについては、この数値より高いと私は思います。大垣を愛することと、英語等で伝える能力というように2段階でやると良いかと思いましたが、非常に低い数値になっているのは、外国の人にとというのがポイントになっていると思います。</p>
委員	<p>この指標を策定する時に、グローバルの中に、ふるさと大垣の学びを入れるかどうか検討され、この指標をここに持ってくるのか、あるいはローカルにとどめて学校教育の別の指標とするのか議論があったと記憶しております。</p> <p>結論としては、ローカルにとどまるのではなく、ローカルをグローバルにどう繋げていくかというところで、この指標となり、かつグローバルに対応した教育の中にふるさと大垣科の推進を入れることとしました。おっしゃったように2段階ということを想定しながら、やはり最終的にそれはグローバルに繋げていくということで、この指標に外国の人が入っていると思います。</p>
委員	<p>23 ページ、新規として防災教育講演が西小と西中で行われておりますが、これは今後、他の小中学校に拡大をしていくのか、それとも年度ごとに学校を変えていくのか、どのようになっていくのでしょうか。</p>
伊藤 学校教育課長	<p>年度ごとに対象校を変えていきます。</p>
委員	<p>25 ページの中学校採点業務システムの活用ですが、新聞報道等でいくつかの自治体、確か名古屋もかなり大規模に取り入れるということを知っています。学校現場の実態として、非常に評判が良いのか、あるいは改善の余地のあるものなのか、どのように捉えていらっしゃいますか。</p>
伊藤 学校教育課長	<p>年々新しいシステムが出てきているのが実態ですが、大垣市が今取り入れているシステムは、最初慣れるまでは難しいですが、慣れてしまうと格段に早くなります。</p>
委員	<p>報道レベルで申し訳ございませんが、一部報道によりますと、採点の時間が半分、または半分以下になると言われていますので、やはり</p>

発言者	発言概要
	<p>かなり働き方改革には効果的だと思います。</p> <p>一方で、先生方が宿題や採点という部分で、子どもの実態を今まで捉えていたものを、アウトソーシングするというような形になってくる場合、どういうところで子どもの実態を捉えていくか、課題というか研究的な視点が出てくると思います。</p> <p>子どもの実態を捉えられないところを別の何かでフォローするものがあると、より良くなっていくと思います。</p>
委員	<p>高等学校の実情ですが、採点業務システムを取り入れています。採点が一気に楽になったと聞いています。タブレットを使った授業も高等学校は、かなり進んでいます。働き方改革の一環としては非常に良いと思います。</p> <p>小テストにおいても、今までは紙を配って先生が一つ一つ採点していました。それがタブレットでやれば、すぐ採点できますし、誰が分かっているかというのも分かります。高校入試もデジタル化していく方向になってきていますので、活用していくと先生方も助かると思います。</p> <p>子ども達が悩みを持った時、それを把握するシステムについて、岐阜市ではタブレットに入力し、あの子は今こんな精神状態である等が分かるようになっていています。大垣市は何かシステム等がありますか。</p>
伊藤 学校教育課長	<p>毎月、心のアンケートを実施しています。少しでも悩みをもった子には必ず担任が直接教育相談をしています。タブレットを使って、悩みや心の様子を聞くことにつきましては検討しているところです。</p>
委員	<p>先生方も忙しいですので、朝のホームルームで今日ちょっと顔色悪いな、様子を変だなと思っても呼んで話す時間は確保できません。</p> <p>タブレットを活用して子ども達の悩みを把握するようにしないと、月1回のアンケートでは全然対応できていないと思います。</p>
委員	<p>昨年度、私は新しい学校の在り方検討委員会のデジタル化推進部会を担当しておりました。部会でいじめの話題になり、ソフトの導入も良いという話がありました。しかし、紙のアンケートを提出してもらった時に、悩み等を書いたのに消して特にありませんと上から書いてあり、それを透かして見ることができるアナログの良さという意見も出ておりました。これをタブレットにしてしまうと、いじめはなかったことになってしまいます。タブレットではない部分で、子ども達の心の悩みを見つけられることもあると思います。</p>

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。



(3) 社会教育について

資料No.2に基づき、林社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	数値の確認です。本日頂きました正誤表には28ページの実績「SDGsをテーマとする社会教育講座への講師派遣の4回を2回に訂正」とありますが、同じものが29ページにもございます。これは別もので、29ページは修正の必要がないということですか。
林 社会教育スポーツ課長	28ページは社会教育を推進する講座で、講師派遣は2回、29ページは家庭教育学級として、幼稚園、保育園2園と小学校2校で実施し4回です。
委員	28ページの指標1「社会教育主事の養成人数（人）」について、最終の目標人数は何人を目指しておられますか。
林 社会教育スポーツ課長	毎年1人ずつ社会教育主事講習に参加し、最終的な目標人数は9人です。これは延べ人数で、人事異動もあり、講習を受けた職員がずっと社会教育スポーツ課にいる訳ではありません。
委員	34ページの指標1「学校支援ボランティア」について、今年度増えています。コロナ禍で学校支援ボランティアが途切れた現状があったと思います。コロナ禍で行きたくても行けない、今までやれていたことができない、学校支援ボランティアにせつかく登録しても学校との繋がりがなくなり離れていってしまったということをお聞きしますが、現状としてどれくらい把握されていますか。
林 社会教育スポーツ課長	おっしゃる通りコロナ禍は学校にも入れないという状況でしたが、学校支援ボランティアをやりたいという方はいらっしゃいますので、市広報紙での募集や、各学校に1人いるコーディネーターを通じて地域に働きかけをしていただいております。人数的には徐々に増えている現状です。地域の方の働きかけのおかげだと思います。
委員	学校支援ボランティアは、この2、3年、コロナ禍で学校への出入りが難しかったですが、会議に出て感じることは、地域の方はやる気があり、多分大丈夫だということです。あとは学校から何をしたいのかということをしっかり伝えていただく等、学校とのやり取りだけだと思います。 ただ学校によって希望される内容が違います。会の中では、他の学校でやっていること、こういうこともできると良いなど情報交換もできています。学校から何か要望があれば皆さんおっしゃっていましたので、これからは復帰していく予感しております。

発言者	発言概要
委員	<p>全国的には学校支援ボランティアはコロナの影響により、学校を離れてしまって繋がりが消えたということが課題になっています。県の社会教育委員の会議に出席しますと、学校支援ボランティアは途切れてしまった、再開しようと思っても今までやっていたことが消極的になってしまったので体制の立て直しが必要だとも聞きます。</p> <p>大垣市は根付いており、それが良さであり強みだと思います。1,342人という数字を見て、地域の方々の頑張ろうという姿勢、大垣市の学校教育に対する協力の強さを、とても感じました。</p>
委員	<p>分野ごとでボランティアに行く人が違ってきますので、人数は今後増えていくと思います。</p>
委員	<p>去年は、さほど活動ができない中、窓ガラスの清掃等に来ていただきましたが、地域の方にはすごく喜んでいただきました。活動の頻度は少なくなっていますが出番を待っているというのが感じられますし、地域のパワーを感じます。一度参加していただくと喜びを感じていただけるので、何か理由がないと脱退しません。大垣市の強みだと思います。</p>
委員	<p>県に地域子ども支援賞があります。地域の方々が学校を応援しようとボランティアで、いろんなことをやっています。それを知事表彰しようという制度です。大垣市には何十年と一生懸命やっていらっしゃる方がいますので、ぜひ表彰対象になればと思います。</p>
委員	<p>私の友人も学校支援ボランティアに登録しておりますが、活動を始めて、明日はこの活動にでなくてはいけないなど本当に生き生きとしています。</p>
委員	<p>31ページの指標2「子ども会リーダーズスクール及びジュニアリーダー養成件数の参加人数」について、コロナの影響により規模を縮小して実施しているため人数は減少しておりますが、結果論といたしましては、少ない人数の中でも子ども達がしっかり育っている、リーダーとしての学習をしています。これは数字では表せませんので残念です。社会教育の中で、子ども達の光る場所を見つけてくださっていますので、これからも応援していただきたいと思います。</p>
委員	<p>全体に関わることでおそらく議論をしていかなければならないのですが、今回の評価まではコロナの記述ができましたが、来年度以降、どのように評価不能を処理していくかということは、今年度中に事務局で方針を考えていただくことになると思います。</p>

発言者	発言概要
	<p>やはり5類に移行されましたので、なかなかこの理由で書き続けることができるかどうか個人的には気になっています。</p> <p>特に社会教育、スポーツ推進、文化振興に関することが多いですので、事務局全体でご検討いただけたらと思います。</p>

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

(4) 令和5年度以降の指標及び目標値の変更について

資料No.3に基づき、伊藤学校教育課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	全国的には、中学2年生の何割ぐらいが受けているものですか。
伊藤 学校教育課長	費用がかかるので、全市的にやっているところは少ないかと思えます。なお、87%という数値は全国1位というレベルです。
委員	何が要因だと思いますか。
伊藤 学校教育課長	<p>大垣市は、小学校の教育課程特例校申請を出しており、全国的に3、4年生は外国語活動として行っているのに対して、大垣市は教科としております。また総合学習の15時間を英語教育に充て、15分程の帯で計45回、英語学習を朝にやっているのも要因だと思います。</p> <p>それ以外にも、ALTや地域の英語講師も入っており、時には担任、ALT、地域英語講師の3人で授業を行うなど、特色のある取り組みが成果に繋がっていると思えます。</p>
細江 教育長	ただこの数値については、経過を見ないと基準として良いのか分かりません。
委員	<p>少し判断が難しい値だと思います。</p> <p>気になるのは、令和5年度から令和6年度の目標値が5%上がっていることです。5%上げるのはなかなか難しいと思えます。設定値は控えめにしている一方で、伸びは大きいですので、それをどう捉えるかと思えます。</p> <p>87%と数値が非常に高く判断が難しいですが、伸びをもう少し抑えてはいかがでしょうか。</p>
委員	55%から57%というぐらいで伸びていくのが良いのではないかと思います。
委員	令和6年度の目標値60%というのは、いかにも87%という高い数値に

発言者	発言概要
	影響を受けていると思います。2%あるいは2.5%の伸びで様子を見るという意味でも、57%ぐらいが現実的に可能な数値かと思います。いかがでしょうか。
委員	意義なし
委員	それでは、57%にして、この2年間は数値の動向に留意したいと思います。

R6の目標を60.0%から57.0%に変更し可決。

(5) その他について

発言者	発言概要
委員	部活動の地域移行について、どの程度まで大垣市は進んでいますか。
伊藤 学校教育課長	今年度中に構想を策定し、来年度から具体的な動きをつくり、令和7年度までに休日の地域移行を開始していくスケジュールで進めております。 現在、アンケートを行っており、8月から種目ごとのワークショップを予定しています。
細江 教育長	岐阜市や大垣市の規模になりますと、取りまとめるのがなかなか難しいですが、組織的には部活動地域移行検討委員会をつくり、行政、学校、スポーツ団体も一緒に入りながら検討していきます。3年間の推進期間のうち、今年が構想策定、R7年度から実働する流れですが、競技ごとで差が大きくなると思います。 また、文科系部活にいたっては、民間といってもなかなか受け皿がない部分があります。特に大垣市は吹奏楽が盛んですので、その子どもたちが十分活動できるようにと考えると、それもまた大きな課題だと思っています。 子ども達がスポーツにしても文化にしてもやりたいことをできる環境を整えていきたいと思っています。小学校から中学校、全体をまとめたスポーツ文化の体系としていきたいということで進めているところです。
委員	大人の論理ではなく、やはり子ども達を第一に考えていただかないといけないと思います。慌ててやり過ぎて、子ども達のやりたいことができない状況になってはいけませんし、かといって先生方の負担も軽減しなければいけません。外部にお願いするにしてもコーディネー

発言者	発言概要
	<p>ターが必要で、働き方改革と逆方向になり、先生方はまた負担が増えます。そのあたり、非常に難しい部分があるうえ、部活動の指導については先生方にとってもある意味大事な部分があると思います。</p>
委員	<p>少年団側としては、何の指針もない現状です。お願いしますと言われても、何をどうやって良いか何も決まっていない状況で、こちら側の人材不足もあります。全員ボランティアでやっていますし、平日働いて土日ボランティアでやっています。</p> <p>地域連携型もありますが、こちらも何も方針が決まってないのが現状です。双方がすり合わせていくことが必要だと思います。</p> <p>種目によってさまざまですので、一本化する指針を出すのも難しいと思います。高野連でも連合チームが出てきていますので、今後はこういう形も出てくると思いますが、少年団の指導者にすごく負担がくるのが現状です。</p>
委員	<p>羽島市が注目されていて、土日は学校の先生は部活動の指導をせず地域の指導者が指導されていると聞いています。</p> <p>今、部活動は教育活動の一環として入っています。国が、教育活動ではないとするのかしないのかによって全然違ってくると思います。</p>
細江 教育長	<p>今は、教育課程外の活動だけ地域の中で連携するとか、学校教育と深い関係があるという記述がありますが、その記述が変わるのかどうかについて一切国は何も言いません。ただ記述が変わって地域でと言われても地域が受けられるのかと言うと民間のスポーツクラブがたくさんあるわけではないので、なかなか難しいと思います。</p>
委員	<p>でも、まだ大垣市は体制がしっかりしている方ですので、先が見える方ではないかと思います。</p>
委員	<p>ほかよろしいですか。</p> <p>今日も指標の変更がありましたが、指標について、来年度以降、コロナの影響については事務局でご検討いただきたいと思います。</p>

閉会